



JET プログラム翻訳・通訳講座

(一財)自治体国際化協会 JET プログラム事業部研修・カウンセリング課

概要と目的

JET プログラムでは、自治体業務に必要な翻訳・通訳スキルを体系的に身につけることを目的に、毎年「翻訳・通訳講座」を実施しています。本講座は、約6カ月間のオンライン研修（通信講座）と、年1回の集合研修で構成されており、基礎から実践まで段階的に学ぶことができます。本講座は、JET プログラム参加者が国際的な業務に対応するために必要な実務能力の向上を支援することを重視しており、単なる語学学習にとどまらず、即戦力として活用できる翻訳・通訳能力の育成を目指しています。通信講座では、英語・中国語・韓国語を用意しています。2025年度の集合研修では、英語・中国語・韓国語に加え、少数言語としてドイツ語の研修も実施しました。少数言語は毎年異なる言語を設定しており、2026年度はベトナム語を予定しています。2025年度の通信講座の受講者は334人で、集合研修には日本語能力が高く（N2相当以上）、スキル向上の意欲がある参加者を対象に、集中的なプログラムが提供されました。

通信講座

通信講座は、集合研修での学びを支える土台として位置づけられており、参加者にとって非常に重要なステップとなっています。約6カ月にわたる受講期間中、参加者は自宅や職場など、自分の生活環境に合わせて日々オンラインで学習を積み重ねていきます。忙しい業務の合間を縫って少しずつ継続できるように設計されており、長期間にわたって学習習慣を維持することが求められる点が特徴です。

通信講座で扱う内容は幅広く、文法・語彙といった基礎力の強化に加えて、基礎訳読や通訳の初歩的な技術など、多岐にわたるカリキュラムが体系的に設定されてい

ます。段階的に進む構成となっているため、受講者は無理なく翻訳・通訳能力を高めていくことができます。また、日々の学習を積み重ねることで、技能の習熟度が徐々に向上していくことも期待されています。

集合研修は、こうした通信講座で培った基礎知識や学習習慣を踏まえて実施されます。参加者は事前に身につけた知識を生かし、より実践的な演習やグループワーク、ロールプレイなどに取り組む構成となっており、通信講座での準備がそのまま集合研修の成果につながる仕組みです。基礎力がしっかりしていることで、集合研修での学びが一層深まり、参加者の理解を支える重要な役割を果たしています。

集合研修 (中国語・韓国語・ドイツ語、9月実施)

2025年9月には、中国語34人（2クラス）、韓国語12人、ドイツ語10人を対象に集合研修を実施しました。各クラスでは、経験豊かなプロの講師が指導を担当し、参加者が個別の理解度に応じたきめ細やかな指導を受けられる体制を整えました。主に、通訳基礎演習やグループワークを通じて実践的な通訳技法を習得しました。



中国語クラスの様子



韓国語クラスの様子

研修期間中は、日中は通訳演習に集中し、夜は課題に取り組むという充実したスケジュールで学習を進めました。最終日には、司会や通訳者、パネリストに分かれて模擬シンポジウムを実施し、参加者にとって現場に近い形での実践機会となりました。少人数クラスでの指導により、一人ひとりの理解度に応じたきめ細やかなサポートが可能となり、学びの定着に大きく寄与しました。

集合研修（英語、12月実施）

2025年12月には英語研修が開催され、135人が参加しました。英語研修では、参加者の経験や参加回数に応じて、ベーシックコース（初参加者向け6クラス）とアドバンスコース（集合研修2回目以降の参加者向け2クラス）にクラス分けが行われました。ベーシックコースは参加人数が多いため、事前にレベルチェックテストを実施し、参加者個々人の能力に応じたクラス分けを行うことで、学習効果の最大化を図りました。

研修初日には全体で概論の講義を行い、2日目以降、少人数クラスに分かれて、講師による通訳基礎演習やグループワークを通じて実践的なスキルを磨きました。

研修期間中は、日中に通訳演習、夜には課題に取り組むスケジュールで、参加者は集中して学習を進めました。最終日には模擬シンポジウムを実施し、司会・通訳者・パネリストの役割を経験することで、学んだ知識と技術を総合的に確認しました。習熟度に合わせて少人数クラスでの密な指導により、各参加者の理解と実践力がさらに深まりました。

少人数クラスによる指導体制は、参加者一人ひとりの



英語クラスの様子

習熟度に応じた対応が可能であるため技能向上を効果的に図ることができました。

まとめ

9月と12月の2回に分けて実施された2025年度の集合研修では、それぞれの言語や参加者レベルに応じた指導が行われました。各研修を通じて、多くの参加者は実務で即活用できる翻訳・通訳スキルを習得しました。参加者からは、「現場で役立つ本物の表現が学べた」などといった声が多数寄せられました。JET参加者の翻訳・通訳能力は、自治体が進める国際化対応に直結する極めて重要な要素であり、各自治体から本講座に寄せられる期待は年々高まりを見せています。言語面でのサポートだけでなく、地域の国際交流施策を支える基盤としても不可欠な役割を担っていることから、研修への関心はこれまで以上に高まっています。

2026年度も、参加者一人ひとりのニーズに合わせてプログラム内容をさらに充実させ、より柔軟で効果的な学習機会を提供していく予定です。こうした取り組みを通じて、各地域での国際交流を支える体制をより盤石なものとし、各任用団体が多様な場面で安心して国際業務に取り組めるよう、基盤強化に引き続き寄与していく方針です。